**荒ぶる製作委員会<歴史部映画班>**

この企画が今年のイベントの中で最大級に問題のある企画であったと思われる。

歴史部は他に多くの団体でイベントに参加していたり、展示企画を行ったりしていたが、それを考慮しても目に余る点が多々発見されたので、それを含めて報告する。

夏休みの時点で、ある程度の進捗が期待されてはいたのだが、その時点で既に収録済みの動画が一部存在した。その時点での彼らの見通しは以下のようになっている。

映画は3部構成で、第2部に関してはCGなどを利用した戦闘シーンを取り入れる。撮影はロケ地に行って行い、編集担当の生徒に預けて編集を行う。

この時点ではまだ夏休みの序盤で、今後の撮影・編集に期待という形で、念のため編集担当の生徒の編集技術が確かめられる動画の提出を求め、連絡先を交換した。

この後、何度か連絡を取ったものの、要求した動画は送ってこられず、こちらからの連絡も度々無視されたりなどされた。

このように歴史部映画班には情報伝達面で著しく問題を抱えており、今後も同様の問題が頻発する。

さて、時は進み夏休み終盤となった。

この時点でほぼ撮影は終了しているものと思っていたのだが、ほぼ進捗なし。ないものは編集できないので、当然編集担当の生徒も音沙汰なし。

この時点で、3部を放棄して1部の編集を別の生徒に任せ、2部は予定通り編集を依頼することになった。

撮影は8/30や新学期に入ってから慌てて行うこととなった。撮影場所は教室となり、大幅にクオリティダウン。既に手遅れであったと思われる。

第1部の編集はスマホアプリKineMasterで行うこととなったが、この時点でクオリティが絶望的なものとなっている。編集担当の生徒は実況動画の編集経験があったため、そちら側に不安はなく、何とか完成程度にはたどり着くであろうといった感じであった。

第2部に関しては編集担当の生徒が体調を崩していたりPCの不調が発覚したりなどで既に絶望的な状態であった。

自分としてはこの段階でクオリティを放棄し、ひとまず完成させることを目標とした。

その後、一応撮影済み動画と、それを繋げただけの短い動画を確認した。しかし、夏の風物詩セミによって台詞は聞き取れず、どうするのかという質問に対してはアフレコで対処するとの回答があったものの、そのような収録が行われる気配はなかった。

本番1週間程度前、こちらからの連絡をことごとく無視されたため、実際に担当生徒の教室に行って確認をとった。

まず、監督の生徒は一切現状を把握していなかった。著しく伝達不足である。

続いて、第2部編集担当の生徒に関しては、体調不良で1週間程度欠席していた。編集作業ができた状態だとは思えない。

そして、連絡担当の生徒、監督の生徒ともにそれをきちんと把握していない状態であった。

第1部担当の生徒は動画をほぼ完成状態に仕上げていたが、ライブシーンに挿入するための音源をもらっていないという段階で作業が止まっていた。その音源も収録が遅れてしまっている状態で、本番直前の収録というとても厳しいスケジュールで行うことになった。

没企画にすることも検討しながらの打ち合わせであったが、基本的に救いはなかった。この時点で没にしてしまってもよかったのではないのだろうか。

終日準備日の時点になっても、予想通り第2部は進捗なし、第1部はとりあえずの完成状態であったが、それでも45分\*2回\*2日を埋められるようなものではなく、なにか代替案を考えてもらい、その出来栄え次第で判断するということになった。終日準備1日目夜、実際にそれを見せてもらうつもりだったが、結局良い意見は出ず、何も見せられずという状態であった。

この時点で没にするつもりであったが、部門長の判断で翌日朝まで待つこととなった。

その後、クイズ企画とその解説VTRという形になり、朝のうちにクイズ用のプレゼン資料はできたようで、その日のうちに改善するという形にはなった。

そして前日の夜、完成したものを見せてもらう予定だったのだが、実際にその場で映像やクイズを見ることはできなかった。

結局、「勝手にやって恥をかけ」というスタンスでの発表をさせるという形で決定し、実際に登壇させることになった。

反省点は歴史部側に多く見られるが、没企画にするまでの判断の遅さが大きく問題となったであろう。連絡の頻度としてはこちらは十分行っていたと自己評価している。

オーディションという体裁をとった以上、先を見て計画性を考慮すべきであった。

以上。

第53回獅子児祭イベント部門副部門長 両角 颯